

新緑の車窓の風や武蔵野線
まつ先に泰山木の花に寄る
青嵐子の後厄を祓ふべく
青梅の数に日の差す誕生日
夏に入る病に耐へる兄の日々
花は葉に御室桜の二三輪
植物園新樹のみどり競ふかに
真つ直ぐに信ずる道を松の芯
階に蜜柑の花の舞ひ来たる
雑草の根の柔らかき夏初め
夏初め双子の靴のよちよちと

千葉 栗原 元子

朱 桂子

中原 栄

今月の印象句

レコードの傷に音とぶ余花の雨
一合の米炊く匂ひ若葉寒
高麗山も連なる山も椎の花
咲ききつて牡丹は色を失へり
鬼女の地と言はれし山や青葉闇

松岡 隆子

河本 順

醍醐喜美枝

宮崎美智子

岡 美穂

堀 真智子

青葉闇水の暗さのことさらに
草々の色濃くなりぬ更衣
灯を消して春満月と向き合へり
雑草の丈を抜け出て姫女苑
児が吹いて草の色なるシャボン玉
街角に農協いまだ苗売られ
葉隠れの残花の数の耀へり
亡き人の家やまつ赤な薔薇咲いて
白靴を履きて元気な膝頭
文机に添削を待つ炎暑の句
五月雨の軒打つ音や午前二時
降りさうな空紅薔薇白薔薇
疫病の話切り上げ柏餅
えごの花雨の雫のあるかぎり
法要の小雨の中のほととぎす
パスワード思ひ出せずに梅雨深し
花莫塵の花の上なる母の影
水割りの氷かたりと夏来る
竹皮を脱ぐたび風の新しく

鈴木 富代

国盛 千春

見上 恵

鈴木美代子

渡部 順子

高野 達子

田辺 文枝

山下なつ子

澤木 孝子

早出 誠治

高橋いはを

鶴田左貴子

堀 すみ江

森崎恵美子

芝 京子

安達みわ子

津村 節子

浅尾 泰昭

瀧見 浩之